

頑張る 農業法人

綾部市山家地域の12集落の中で、唯一の農業法人となった鷹栖(たかのす)地区の農事組合法人「グリーンファーム鷹栖」。榎本良明代表理事(75)は「今は米生産だけだが、将来はハウス栽培で野菜類などの生産・加工・販売の6次産業化を目指す。さらに、広い地域の農作業受託を行い、農地を守っていききたい」と法人としての活動展開の思いを抱く。

同地区は綾部市南部にあり、由良川や国道27号、JR山陰線の北側に接する中山間地域。92世帯のうち65戸が農家で、農地全体は約22㌖。1993年に圃場整備されたが、1戸当たり平均26㌖と狭小だ。

を、集落1圃場を目指し、農家で鷹栖町営農組合に89年に再結成した。地域全体で転作圃場の調整や、高齢化・担い手不足となった集落の米作り作業受託をしてきた。

有機質肥料を中心とした特別栽培米に挑み、2007年に特定農業団体となり「みんなの農地はみんなで守ろう」との機運が高まった。JA京都中央会、JA京都にのくにや行政の指導で11年1月に44戸で法人を設立。代表理事を含め理事7人と監事2人で経営する。

稲刈りなど忙しい時期には、法人の組合員の中から7人をアルバイトに雇用。11年にはエコファーマー認定を受けた。

非農家もいた農家組合

□ □

綾部市
鷹栖町

農事組合法人 グリーンファーム鷹栖



出穂した特別栽培米を管理する榎本代表理事(右)と四方充理事

農地はみんなで守る

特栽米や小豆採種に挑戦

8・4㌖で稲「コシヒカリ」を栽培。そのほとんどが直播で、省力化に取り組む。同JAの指導で、今年から1・2㌖で小豆「京都大納言」の採種栽培を始めた。

「特栽米や小豆は全てJAへ出荷。JAの指導がなければ法人経営はやっていけない」と榎本さんは地域農業の担い手に向くJA担当者(愛称TAC)タック)などの支援に感謝する。

「今後、過疎高齢化が進む近隣集落の農作業受託や、女性が試験的に取り組んでいる野菜類の生産を軌動に乗せて6次産業化を目指すなど、地域活性化の拠点としたい」と力強く話す。

▽法人所在地 綾部市鷹栖町豊後田6。連絡先(榎本代表理事) 電話 0773(46)0366。